

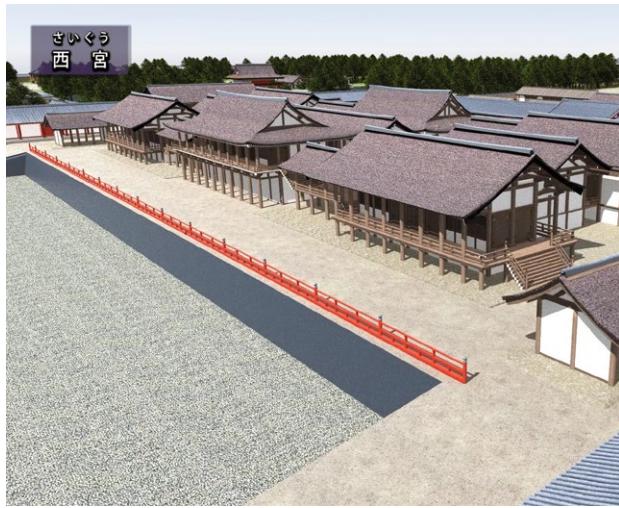
平城宮・京紹介CG動画の作成と 多言語化

多くの場合、建物の基礎部分だけが残る遺跡から、往時の姿をイメージするのは容易ではありません。そこで、奈文研では視覚的に奈良時代の平城宮・京を理解できるよう、CGで建物をはじめとする諸施設を復元して、公開することを目指してきました。折しも昨年度、文化庁の補助を受けて英・中・韓の多言語解説を付すことができ、今年3月より動画として公開に漕ぎ着けることができました。

CGモデル原案は、1977年に奈良市が作成した平城京の復元模型を参照しています。ただし、40年以上が経過しているため、都城発掘調査部でプロジェクトチームを組織し、可能な限り最新の研究成果を盛り込むこととしました。作業は発掘遺構から具体的な建物寸法や配置を確定させることから着手しました。とはいえ、平城宮跡において発掘調査を実施できたのはまだ全体の約4割弱。第一次大極殿や朱雀門等、すでに詳細な検討をへて復元された建物はその図面を参考にできます。いっぽう、現時点で復元図がない建物は、発掘遺構を検討して現存する歴史的建造物を参照しながら上部構造を推定しました。

復元には多大な時間と労力を要しましたが、日本語だけでなく多言語での紹介ができたのは幸いです。これらの動画は、平城宮跡資料館で見ることができますほか、なぶんけんチャンネルでも公開しています。この動画で、奈良時代の平城宮・京を体感していただければ嬉しく思います。

(都城発掘調査部 山崎有生)



西宮の様子（平城宮紹介CG動画より）

キトラ古墳壁画保存管理施設の ホームページに「Kitora-Atlas」を 公開

奈良文化財研究所が管理運営しているキトラ古墳壁画保存管理施設のホームページに、墳丘や石室、壁画の各図像、各出土品の詳しい解説と写真をご覧いただける「Kitora-Atlas（キトラーアトラス）」のページを今年3月より公開いたしました。

国宝に指定されているキトラ古墳壁画は保存の観点から、公開する壁画の数と期間を限定せざるをえません。さらに、昨今の新型コロナウィルスの感染拡大による自粛の影響もあり、実物をご覧いただけたる機会はかなり制約されています。

こうした状況の中でもキトラ古墳について知っていただける機会になればと願い、オンラインによる取り組みをおこなうことになりました。「Kitora-Atlas」は場所や時間を選ばず、誰でもキトラ古墳について知ることができるように、壁画は四神・十二支・天文図の各図像の11項目、出土品は20項目にわたりて解説ページを設けています。

実物を見ることが難しい時でも、このページで飛鳥時代の工芸技術と大陸からもたらされた思想を身近に感じていただけると思います。

なお、「atlas」は英語で地図帳を意味し、キトラ古墳に描かれた天文図のような、いわゆる星図を「star atlas」と言います。キトラ古墳をもっと知りたい方、または初めて知る方がこのページを「地図」、Atlasとしてご活用いただければ幸いです。

(飛鳥資料館 黒澤 ひかり)

Kitora-Atlas
<https://www.nabunken.go.jp/shijin/about/kitora-atlas/>



Kitara-Atlas内の壁画解説ページ